新年一月の天象

太　陽

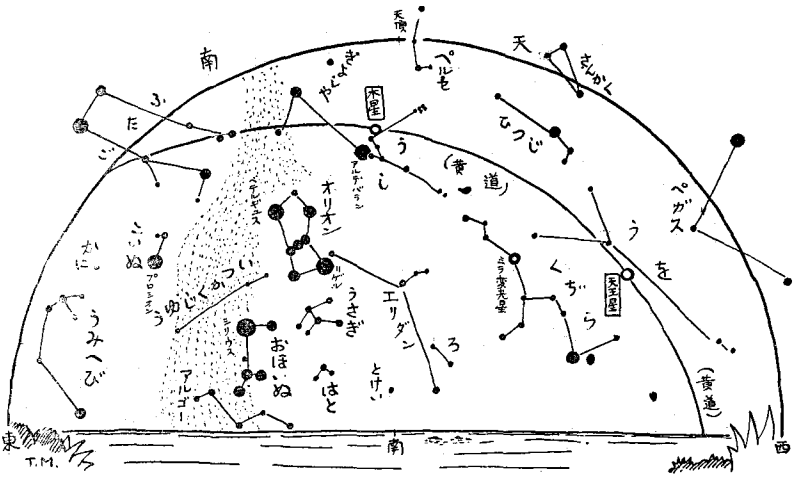
日	赤經	赤緯	視直徑	星座
1	18時45分07秒	南23度03分	32分35秒	いて
11	19時28分58秒	南21度53分	32分35秒	いて
21	20時11分51秒	南20度 0分	32分33秒	やぎ
31	20時53分29秒	南17度30分	32分31秒	やぎ

月始めは麻羯宮に在るが，二十一日から寶瓶宮に侵入する．三日に地球は近日點を通過する．其の時の太陽視直徑は三十二分三四・九八秒(前表の値は秒以下四捨五入)

月

月の相	時刻	視直徑	星座
上　弦	8日午後 0時11分	30分43秒	うを
滿　月	15日午前 7時21分	33分32秒	ふたご
下　弦	22日午前 1時07分	30分46秒	をとめ
新　月	30日午前 4時07分	29分25秒	やぎ
遠地點通過	2日午前 0時48分	29分23秒	いて
近地點通過	15日午前 9時24分	33分32秒	かに
遠地點通過	29日午前 1時12分	29分23秒	いて

今年も相變らず，月の各遊星歷訪を御紹介しやう．月は元旦夜半に先づ遊星中で一番太陽に近い水星にお目にかかるのは緣起がよい．それから七日夕刻に天王星に追ひ付いて，それの南側二度の所を通り過ぎる．十二日曉に木星と出合ひ，其の北側三度の所をすれ違ふ．十七日夕刻，海王星と出合つてその北側四度の所をすれ違ふ．そして二十七日朝，土星と出合ひ，二十八日夕刻，火星を追ひ越し，同日夜，水星を追ひ拔き，最後に二十九日夜，金星に追ひ付いて，今月の歷訪を終る．



遊　星　界

水　星　宵の星で，六日に東方最大離角19度となる．位置は「いて」座の東端で順行中である．併し十二日に留となると，其の後逆行に移り，ぐんぐん太陽に近づき，二十二日に内合となる．故に觀望には六日前後がよく其の頃の光度は0等，視直徑は七秒足らずである．

金　星　曉の星であるが，非常に太陽に近付いたので觀望には適せぬ．位置は「いて」座の西端を順行中である．光度負三等半．視直徑十秒足らず．

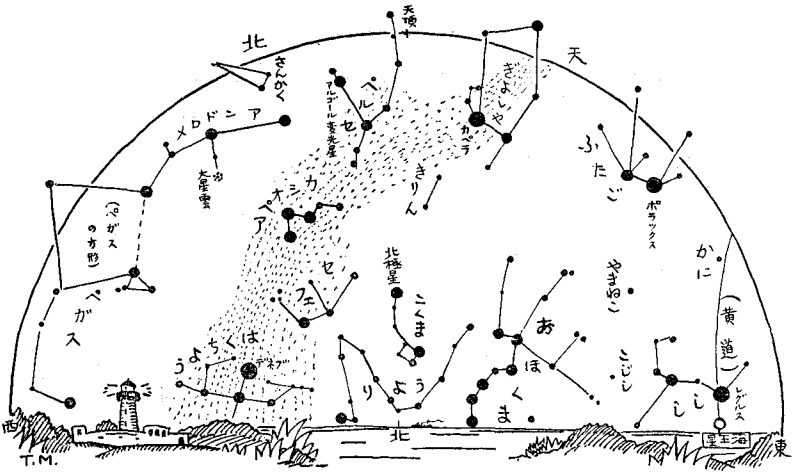
火　星　此れも曉の星であるが，太陽に近くて，殆んど觀望出來ぬ．

木　星　宵の星，「うし」座主星（アルデバラン）の北寄りの所を逆行中今月中の最も觀望に適する遊星である．月末三十一日には留となり，其の後は順行に移る．光度負二等．視直徑四十二秒．

土　星　初め太陽に甚だ近いが，月末になる程，稍見得る樣になる．月末の視直徑は十四秒．光度一等．

天王星　宵の星「うを」座四十四番星に近い．光度六等．視直徑三秒餘り．

海王星　夜半前東に登る．「しし」座主星（レグルス）に近い．光度約八等．視直徑二秒半．



恒　星　界

野も山も，雪の衣に包まれて，靜かに眠る夜半．地上の銀世界ミ，瞬もせず此を見守る冬の星座ミは共に一年に一度の美はしい對照である．

先づ天の河は南北に流れ，「カシオペヤ」，「ペルセ」，「おほいぬ」，「こいぬ」を其の流域に包んで，「オリオン」ミ「ふたご」を其の兩岸に對峙させ，「ぎょしゃ」や「うし」を中流に浮べてゐる．「ペガス」の正方形は西空に傾いたが，「アンドロメ」の渦卷星雲や，「オリオン」座 θ 星附近の大星雲はまだまだ高く，肉眼にもそれミ頷かれる．神話に傳はる七美女の集り，「プレアデス」は今も尙ほ，優にやさしい光を放つて居り，「ペルセ」座二重星團は特に銀河中に目立つ．

燈臺星アルゴルが天頂に近く座を占め，規則正しい明滅を繰返して，宇宙の旅の路しるべを務めるミ，怪星ミラが西の空で，赤い大きな吐息をつく．全天に瞬く大小幾多の赤い星，青い星，白い星は天空の神祕を其の色に包み，「プレアデス」星團や「アンドロメ」星雲は大宇宙の構造を物語らうミしてゐる．

遊星界は甚だ淋しく，只木星のみが「うし」座に輝くのみ．併し，日暮れの後，壯嚴な黃道光が銀河を凌ぐ純白光で　暫らく西空を映へ輝かすのは此の頃である．